



関西出発組のみなさんとモンゴル人学生のみなさん。前列右の女性が、モンゴル在住日本人の近彩(こん あや)さん。



1日目の夕食会会場で、琴平町から参加の吉田さん(右)と。山登りが趣味のとても元気な方!

「踊りましょう!」  
と、モンゴル人学生のスーちゃんや声をかけてくれるひとまずホールに飛び出してみたものの、Tシャツな私たちはボディコン女子のなかで多分完全に浮いている。モジモジ踊って(でも楽しかったんです)空気を味わい、夜1時ごろホテルへ戻ってきた。  
ウランバートルにはたくさんクラブがあるそうで、その質はピンキリ。私たちが行ったのは、レベルがかなり高いところ。入場料が2万トウ



マラソン会場までの道中、立ち寄ったトイレ。草原にぽつんと小屋がありまして、ドアを開けると穴があります。ティッシュペーパーは必需品。



大きな鷹を腕に乗せて記念撮影!九州沖縄モンゴル友好協会の事務局長・副田さん(右)と。重いつ。



チンギス・ハーン像テーマパーク。高さ40メートルの騎馬像は圧巻!モンゴル人学生のプーちゃんと。

### ウランバートルの夜

モンゴルの首都ウランバートルまでは、直行便で約4時間半ほどのフライト。割と近い気がする。チンギスハーン国際空港に降り立つと、「ようこそモンゴルへ」の紙を持ったモンゴル人大学生が待っていてくれた。彼らはモンゴルの大学で日本語を教えたりしている近彩さんの教え子さんたち。日本語はもちろん、英語もほとんど通じないというモンゴルでの旅を、彼らがボランティアでサポートしてくれ。また、宿泊するフラワーホテルは

日系のホテル。日本語が話せるスタッフがいて、しかも大浴場付き!ホテル内や学生と一緒にいる限りは、何も苦勞がなさそうだ。  
夕食会のあと、大浴場でひとっ風呂あびた。でもこのまま早々に寝ちゃうのはもったいない...という人のために、学生たちが夜のウランバートルに連れて行ってくれることに。6人の日本人がモンゴルの若者たちと夜の街へ繰り出した。  
「ウランバートルの若者はみんなこういうところに遊びに来ます」というそこは、クラブ。夜12時には



クラブ「メトロポリス」での夜。おしゃれな若者であふれていた。

ホールに若者があふれ、大音量の音楽が鳴り響き始めた。お立ち台のようなどころに何人もボディコン女子とイケてる感じの男子がいて、楽しそうに踊っていた。日本でいうところのディスコを思い出させる雰囲気。ときにはこういうところでバースデーパーティをしたりもするそう。



## 世界初!草原マラソン体験記

# 大草原を走ってみました! in モンゴル



旅行が大好き。CU編集部M。  
自慢の八重歯と八方美人を武器に、モンゴル国際マラソン21キロコースに挑む!

### アバウトでミステリアスなマラソン大会

「おもしろそうなマラソン大会を見つけちゃいました」。先輩が見つけてきたその大会は世界で唯一の草原マラソン、モンゴル国際マラソンだ。へー、草原を走って爽快そうやな。この時点で参加する気はゼロ。ちよっとした興味でいくつかのHPをのぞいてみた。

「アスファルトを走らない草原マラソン。ハーフの優勝賞品は男女に馬1頭。アバウトな大会なれど帰りはみんな笑顔。表彰式後草原パーティー」(引用…ランネット)  
「馬や羊を眺めながら、アップダウンあり、穴ぼこあり。ミステリアスなモンゴルの大草原を走る。時には迷子になったり。でも、大丈夫、人海戦術でフォローしています。」(引用…スポーツエントリー)

：何それ(笑)。アバウトでミステリアスで迷子になったら人海戦術で助けに来てくれるマラソン大会。優勝したら馬1頭。そんな大会、ほかにある?さらに興味を湧いてきて、大会ツアーを斡旋しているという「トラベルあさひエージェンシー」さんのブログへ飛ぶ。エントリーを3つくらい読んだころには爆笑しすぎて疲れていた。ダメだ、我慢できない。参加しよう。

旅は波乱からスタートした。タクシー予約時間の15分前に目覚めると

グリック(約1400円)、店によっては140円というところもある)と高い分、それなりに安全面でも安心できるそう。ただ、途中トイレに行ったら人がドアが開かなくなると、トイレの個室内で青ざめるというちよっとした事件が起こっていたりもしたけれど。

翌日の街歩き1日を挟んで、ツアー3日目。いよいよ草原マラソンの日だ。行程表によると、昼2時スタートの予定になっている。が、バスに乗ったところで予定変更のお知らせ。スタートは昼1時に繰り上がったそう。そんなこともあるんやなあ...。バスは時に道らしき道なき草原を

いう華麗な寝坊から始まり、予約した高速バスチケットを忘れてバス乗り場で青ざめたり、腕時計を忘れたか...と思ったら携帯の充電器を忘れていたり。次々と襲い掛かる不幸(というか自業自得の忘れ物ばかり)にうすすら涙しながら、閑空へ到着。ほかに忘れ物ないよね?と自問自答を繰り返して、忘れちゃった腕時計と携帯の充電器を泣く泣く購入して(総額3500円...、今度こそ準備万端。ツアー集合場所へ向かった。  
今回旅のお世話を担当してくれるのは、トラベルあさひエージェンシー。とても優しいような男性だ。一緒に旅する閑空からの出発組は、20代〜70代という幅広い年齢層の約20人。今回で17回目を迎えるモンゴル国際マラソンに10回以上参加しているベテランさんや、マラソン経験はないけどおもしろそうだから来ましたという方、これが初海外旅行です!という方などが多い。意外なことに、1人での参加者も多い。良かった、これならさみしくない。

モンゴル豆知識
首都:ウランバートル
通貨:トゥグrik ※レートは100トゥグrikが6~7円程度
両替:両替は現地で。ウランバートルでは日本円からの両替ができるけれど、地方では難しいのでUSDを持っておくのが無難。
人口:約286万8000人 ※学生いわく、「人口の半分近くがウランバートルに住んでいる」とのこと。そのせいか、ウランバートルはいつも車が渋滞している。
言語:モンゴル語。表記するのはキリル文字。外国語は英語よりロシア語のほうが通じやすい(特に年配の方)。
宗教:チベット仏教が浸透。基本的に信教は自由なのだそうです。

行く。どうやって目的地にたどり着くんだろう。なんとなくついていくのが目印? 本当に謎だ。前日までに降った雨でできた巨大な水たまりをよけつつ、昨年できたばかりという保養地「マンダリリゾート」に到着した。ここがモンゴル国際マラソンのスタート・ゴール地点。スタートの昼1時までは時間がある。配られたサンドイッチを手に見晴らしのいい場所で何人かとランチタイム。  
「去年は寒かったんですよ、今年はいけるかな」と近さんが空を見上げて言う。青空が見えるもの、雲も多い。降られなきゃいいな。



参加者のほとんどがモンゴル人と日本人。一緒に国歌(?)斉唱。

ようやく始まった開会式。待ちました〜。

のんびり走る。やがて、「5 km」という  
 タテ看板が見えてきた。これは、「5 キ  
 ロコースの折り返し」という意味。つま  
 り2.5キロ地点のはずだ。そのとき一緒  
 に走っていたのは、10キロコース出場の  
 の日本人女性。看板のところで給水  
 をして走り出そうとすると、給水所  
 担当のモンゴル人が私たちを呼び止  
 めた。とはいえ、相手はモンゴル語オン  
 リー。ふたりしてばかりと彼を見て  
 いると、派手なアクションで「違う違  
 う」と手を振る。そして10キロコースの  
 女性のゼッケン(ゼッケン番号で何キロ  
 コース出場かわかる)を指差して「キ  
 ミは折り返しだ」とゼスチャー。「あ  
 れ? 10キロはここで折り返しだっ  
 け?」とふたりして首をかしげるも、  
 モンゴル人係員が自信満々の顔で「そ  
 うだ」とうなずく。そして「キミは折  
 返し、あなたはまだまだすすぐ! さあ  
 さあ早く、マラソン大会なんだから」と  
 言っ(ているように見える)ゼスチャー  
 で「手を振った。  
 「もしかしてこの『5 km』の看板の意  
 味は、ここが5キロだよってことなん  
 かなー」  
 ふたりして首をひねりつつも、係員  
 がそう言うなら間違いのないよねとこ  
 でお別れ。後で知ったことだけど、  
 やつぱりこれは彼の間違いで、10キロ  
 コースの折り返しはまだ先。彼女は途  
 中で気づいて引き返したそう。まあま  
 あ、そういうのも含めてモンゴルらし  
 い楽しいマラソン大会なんです。  
 さて、コースは、「5 km」のタテ看板  
 を過ぎたあたりから少しずつアップ  
 ダウンが出てきた。草も高くなってきたし、  
 その草に隠れるようにでこぼこ  
 もある。足をとられて何度もこけそ



草原にところどころ現れる旗がコースの目印。次の旗を目指して走っていく。

牛の群れ! ときどきコースを横切るので、そのときはランナーが立ち止まって通り過ぎるのを待ちます。

突然始まったレース! 突然すぎてみんな苦しい。

ところでこの大会、21キロコースの  
 優勝賞品は馬一頭である。それに一番  
 近い日本人が九電工の元陸上部、鬼  
 塚さん。過去2回出場して連続準優  
 勝、今年で3度目の出場になる。閑空  
 から一緒にやってきた身としては、ぜ  
 ひ優勝してほしい。ツアー参加者みん  
 なの期待の星なのだ。しかし優勝した  
 ら、馬はどうなるんだろう。飼う? 食  
 べる? えー? とみんな首をひねっ  
 ていたら、琴平から参加の吉田さんが  
 「優勝したら、馬をこんびらさんに寄  
 付するのはどう? 神馬になるよ」  
 と地元愛あふれる提案をしていた。な  
 るほど、馬は幸せかもしれない。な  
 ね。  
 □  
 昼1時の10分前。ようやくモンゴル  
 人を乗せたバスがじゃんじゃん到着し  
 始めた。モンゴルの草原なのに見渡す  
 限り日本人だらけだった場所が、よう  
 やくモンゴルらしく見えてくる。でも  
 スタートの予定時刻はもうすぐなん  
 だけど...  
 「昼1時スタートってムリじゃない?」  
 と誰かがつぶやいた。案の定、ムリだ  
 った。もちろん誰もそんなことで怒った  
 りはしない。のんびりおおらかでアバ  
 ウトな大会だからね。結局スタートは  
 約1時間遅れの昼2時ごろになった。  
 モンゴル語と日本語による開会式の  
 あと、ゲート付近に約450人ほど  
 の参加者が並ぶ。1.5キロ、3キロ、5  
 キロ、10キロ、21キロとコースに分かれて  
 いるけれど、スタートは一斉。  
 「距離が長い人は前に並んでくださ  
 い! あと2分でスタートです」

うになり、もうなんなのー! となるけ  
 れど、同時にそれまではなかったキレ  
 イな花もたくさん見えるようになって  
 きた。私が植物に詳しくなければ、き  
 とこの景色をもっと楽しめたのに。た  
 だただキレイだと思いがら、ついに  
 「21 km」という折り返しまでやってき  
 た。タンクトップのモンゴル人が目印  
 の旗を持って立っている。「おーい」と  
 手を振ると、笑顔で黄色い旗をパタパ  
 タと振ってくれた。  
**不安中! 雨の草原**  
 折り返して同じツアーの参加者に  
 出会ってからは、しばらく一人旅。草  
 原で何もさえないものがないはずな  
 のに、ゴールが見えない。ランナーも  
 見えない。そしてコースもわからない。  
 こっちで合ってるのかなあ、草原で迷  
 子ってほんとにあるんだなあ... なんて  
 思っている、空に広がった厚ぼつ  
 たい雲から大粒の雫が落ちてきた。  
 あっという間の大雨だ。カメラがやば  
 い! 手に持っていたコンパクトカメラ  
 をウエストポーチにしまうけど、その  
 程度じゃしのげないほどの雨だ。小  
 さなウエストポーチをスパッツの中  
 ぎゅうぎゅうと押し込んだ。走りにく  
 いし見た目ダサいけど仕方ない。そう  
 こうしているうちに雷がゴロゴロ鳴り  
 始める。草原で雷!? なんか危険な気  
 がする... 顔をあげると、はるか遠く  
 にゴールが見えた。大豆くらいの大  
 さ。ささげるものが何もない草原で雨  
 と雷、そしてゴールはまだまだ先。無  
 事ゴールできるのだろうか。  
 (次号へ続く)



マンダリリゾートの休憩用バンガローから見た景色。カラフルなテントが本部席。

スタートゲートの向こうがマラソンコース。道はなし。



上位入賞の期待の星、鬼塚さん(右)と外村さん(左)。ふたりとも速そう!



ハーフコース折り返し地点。おじさん以外、目印はない。

モンゴル国際マラソンに10回以上参加の馬場さん! 元気に手を振って折り返し。

遊牧民が暮らすゲルの真横を走る。



サンドイッチ、おいしかった! レースに備えてエネルギーチャージ万全。

空模様を気にしながらランタイム。晴れるといいなあ。



草原に落ちているペットボトルなどのゴミを回収しながら走るJICAの木下さん。

遠くに見えた、1位の選手!

給水所。水はペットボトルごともらってもいいし、飲みただけ飲んで次の人へ残してもOK。

本部から声が飛ぶ。21キロコースに出  
 る私は、もつとも馬に近い日本人・鬼  
 塚さんのスタートをかつこよく撮影  
 しようと、ゲート前に観客同様陣取っ  
 た。2分後スタートね、と思っていた  
 ら、1分もたたないうちに「パン」とい  
 うスターターの音がした。みんな、  
 笑いながら走り出す。どうやらこれが  
 本当にスタートの合図らしい。思いも  
 よらないスタートに、鬼塚さんの華麗  
 なるスタートは撮影できませんでした。  
 た... さ、気を取り直して私も走る。  
**ついに草原へ!**  
 草原を走る。それってどういう感じ  
 だろう。エントリーしたときからワクワク  
 していた。実際に来てみると、そこ  
 は本当に草原。ゲートの向こうは、  
 道なき原っぱが広がっていた。ときど  
 き草原に旗がパタパタと揺れている。  
 これがコースの目印。あとは本当にた  
 だの原っぱなのだ。フツウにゲルがあ  
 り、フツウに牛や羊などが放牧され  
 ている。そして、そのあたり一体に糞  
 も落ちていた。初めは下を見ながら糞  
 をよけよけ走っていたけど、正直言  
 えばメンドウだ。下ばかり見るんじゃ  
 なくて、景色も見たい。いつの間にか、  
 糞を踏むのに慣れてしまった。踏んだ  
 ところで死ぬわけじゃないし、と  
 明るく糞を踏みつつ、走っていく。し  
 ばらく走ると、1.5キロコースの折り返  
 し。チビッコたちが元気に折り返して  
 いく(しかも速い)。パイパイと手を  
 振りチビッコランナーと別れて先へ。  
 日本人ランナーも割と多くて、「どっ  
 から来たんですか?」という出身地  
 トークをいろんな人と繰り返して